

進学者のニーズや人材需要に対応するための大学構造改革と理系学生の活躍促進に関するタスクフォース とりまとめ（概要）

令和5年8月



文部科学省

1. 問題意識

- ✓ 令和4年5月、教育未来創造会議第一次提言が公表
 - ・ **理工系学部への進学割合は17%**に留まる（OECD平均は27%）
 - ・ **理工系学部への進学割合**は男性28%、女性7%で**男女に差** 等
- ✓ 理系人材育成の取組、就職時に理系分野の専門性を生かせる機会の確保、若手研究者が専門性を生かして研究に打ち込み、成果が評価されるような支援が重要
- ✓ 諸外国と比較して、**責任ある社会の一員として夢を持ち、国や社会を変えられると思っている者が少ない**等の調査結果があり、**諸課題を解決し、より良い社会を創造しようとする人材の育成の観点からは憂慮すべき状況**

【目標】

今後5～10年程度で理系専攻学生の割合を5割程度まで引き上げ

- **文部科学副大臣の下にタスクフォースを設置し**、文部科学省として取り組むべき施策を集中的に検討
- **有志職員から構成されるワーキングチームでの検討**を経て、とりまとめ

2. 課題と具体的方策

(1) 初等中等教育

課題

- ✓ 初等中等教育段階の理数教育（探究）において子供の興味・関心を引き出すことが必ずしも十分ではない
- ✓ 小学校段階から理系分野に目を向けるための方策の増加
- ✓ **理系科目が得意な人が専門性や得意分野を伸ばせる環境の整備**
- ✓ 多様な知の融合が図られるよう**探究活動を充実**
- ✓ **授業の質向上**や、様々な人材・教材等を活用した**多様な指導・学びの実現**
- ✓ 進路選択時の**アンコンシャス・バイアスの払拭**、理系選択後の**「出口」（キャリアパス等）の提示**

目指す姿

- ✓ **小学校段階からの理数教育・探究、SSH×文理融合、将来のトップサイエンスを支える人材の育成**（多くの児童生徒が最先端の探究・STEAM教育を受ける機会の創出）といった施策を一体的に推進
- ✓ 理系分野の魅力を伝えられる**外部人材を適切に活用**

具体的方策

(2) 高等教育

課題

- ✓ NIAD基金（※）の効果の最大化に向けた施策の連携、卒業生の活躍の場の創出
- ✓ 大学入学者選抜の見直し、「出口での質保証」への転換（※）「成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金」
- ✓ NIAD基金を始め、地域課題解決施策、総合知や人文・社会科学系学問の振興、理系人材育成施策の推進により、**理系的素養を持つ人材の育成**、ひいては、**社会的課題の解決に資する人材を輩出**

目指す姿

- ✓ NIAD基金選定大学と各関係者との**連携の場の形成、NIADの機能強化**、理工系学部における**女子学生割合の向上**を推進
- ✓ NIAD基金で転換した学部の**卒業生の多様な活躍の場を創出**
- ✓ 第一次提言で記載された**文理横断教育を進めるための取組の推進** 等

具体的方策

(3) 科学技術人材の活躍促進

課題

- ✓ 博士人材の活躍の場が少なく、就職後の待遇に魅力が感じられない
- ✓ 特に女性研究者にとって家庭と研究活動の両立が困難
- ✓ 産業界を始め、各分野で**博士人材の採用・登用が進み、待遇が向上**
- ✓ 研究者が機関間・職種間異動を容易に行うことができ、**ライフスタイル・能力・適性に合わせてキャリアを継続**

目指す姿

- ✓ 博士人材の**汎用的能力の可視化**に向けた取組や、新たな**能力評価の手法やプログラム**の開発・普及を推進
- ✓ Dual Career人事など**研究者の円滑な機関間異動に関する支援**の実施
- ✓ URA等の**多様な研究開発人材の育成・評価システムの連携・統合** 等

具体的方策

(4) 各段階を通じた一貫通貫の視点

- ✓ 社会課題を解決しようとする高い志や当事者意識を持った上で、理系分野の重要性を認識し、主体的な進路選択の結果として**自ずと理系分野が選ばれるような環境の整備**が重要
- ✓ **初等中等教育と高等教育の接続**や、**高等教育と産業界との接続**に一層配慮
- ✓ 担当施策に責任を持ちつつも、**所掌の枠にとらわれない部局横断的な視点**が重要
- ✓ 諸施策について継続的に検討できる**部局横断的な場や機会の設定**
- ✓ 将来的には、高校段階の早期の文理分断の見直し等について検討することも課題